遺伝子組み換え ＧＭ の一体何が問題なの？

◆ＧＭは健康に問題

ＧＭ（＝遺伝子組換え）の餌を食べたねずみの雌は、若くして腫瘍ができるものが多い。普通のねずみは腫瘍ができる割合はずっと少ないし、しかもできたとしても最晩年なのに……そんな実験結果が発表されています。2012 年 9 月、フランス、カーン大学のセラリーニ教授らの実験チームが、右の写真とともに発表したものです。ＧＭ作物の大半は「除草剤耐性」で、大量の除草剤をかけて栽培されます。健康に悪影響を及ぼすのは除草剤なのか、あるいはＧＭ技術そのものなのか……。それを見極めるため、除草剤をかけずに育てたＧＭコーンも実験では使われました。右のねずみもそうした餌を食べた個体です。実験結果は、どちらもクロ。除草剤も健康に悪いし、除草剤をかけないで育てたＧＭ作物もやはり健康に悪い、というものでした。餌に使われたのは、市場に広く出回っている除草剤耐性ＧＭコーン（ＮＫ603）です。

- 寿命が短くなる
- 腫瘍ができやすくなる
- 解毒器官（肝・腎）に異常
- 免疫力が低下
- 新生児の発育不良

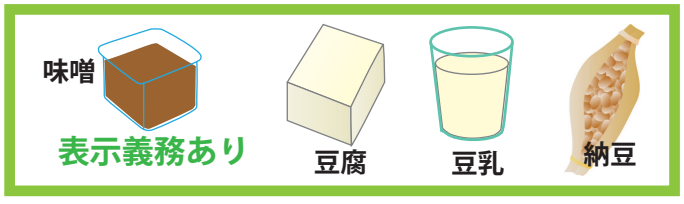
フィリピンでは、栽培されるＧＭコーンの９割を、除草剤耐性と殺虫毒素を兼ね備えた品種が占めています。農民たちは自分の栽培したコーンを食べて体調不良を実感するようになり、今では恐ろしくて誰も食べようとしない、売るだけだ、と言います。殺虫毒素は害虫の消化管を破壊する作用を持っているので、それが人間の消化管にも悪影響を与えている可能性があります。

フィリピン
イサベラ州農民組織
ジーザス・
アグスティン氏

◆知らないうちに食べている！？

日本ではＧＭ＝（遺伝子組換え）食品はその旨を表示しなければならないことになっていますが、その決まりにいくつかの抜け道があります。最大の抜け道は「組み換えられたＤＮＡや、それによって生成したたんぱく質が含まれない場合には、遺伝子組換えである旨を表示しなくてもよい」というもの。それらが検出されない油や醤油、液糖などには、表示義務がありません。ＧＭの餌を食べて育った家畜の肉も、同様です。ですから、多くの人は肉を通して間接的に食べたり、油として大量に摂取しているのが現状です。

※油はコーン油、大豆油、なたね油（＝キャノーラ油）、綿実油、サラダ油（＝これらの油の混合が多い）はほとんどがＧＭです（ただし国内ではＧＭ作物の商業栽培はされていないので原料が国産なら非ＧＭです）。



◆ＧＭ（＝遺伝子組み換え）は環境にも問題

◆交雑で在来種が消えてしまう！？

ＧＭ作物の花粉は風で運ばれ、隣の畑へ、さらに遠くへと飛んでいきます。花粉が飛んできた畑ではＧＭ作物との交雑が起き、在来の品種が遺伝子汚染によって失われてしまう可能性があります。コーンの原産地メキシコでは、ＧＭコーンの栽培を許可していないにも関わらず、各地で在来コーンとＧＭとの交雑が確認されています。食用に輸入されたＧＭコーンを、農家がＧＭと知らずに植えてしまったせいだと考えられています。今後もさまざまな品種改良のもとになるべき、健全な在来品種が、ＧＭ汚染によって存続の危機にさらされているのです。日本でも港や幹線道路沿いにこぼれたＧＭナタネが自生し、在来ナタネとの交雑が始まっています。

◆除草剤による環境汚染

ＧＭ作物の畑に散布される除草剤は、土に沁み込み雨で流れて、川や地下水を汚染します。その毒によってＧＭ畑の周辺では、水鳥が一度に何十羽も死ぬこともあるといいます。水系が汚染されれば人間の飲み水も安全ではなくなってしまいます。また、除草剤を撒き続けることで、それに対抗する強さを持った「スーパー雑草」も現れています。それに対処するため、企業は複数の除草剤に耐性を持ったＧＭ品種も開発するようになりました。新たな除草剤として利用されることになるのは、「2,4-D」や「ジカンバ」。これらはベトナム戦争で枯葉剤として使われたものです。ベトナムで大量の奇形児を生んだといわれる枯葉剤。ＧＭ作物の普及にともない大量に散布されるようになれば、環境汚染はますますひどくなるでしょう。

◆ＧＭ（＝遺伝子組み換え）は社会的にも問題

◆農家の支出は増える一方

「殺虫剤を使わなくて済むから農薬代が節約になる」「除草の手間が省けるから人件費が減らせる」「収量もアップする」「だから収入が増える」などと企業はＧＭ種子を宣伝しますが現実は違います。害虫が次第に増えて、結局殺虫剤を買わなければならない。以前はなかったような病気にやられてひどい不作になる年もある。土壌の劣化で化学肥料は次第に大量に必要になる。タネの値段もみるみる上がり、支出はどんどん増える一方。収入は逆に減ってしまった……と多くの農家が訴えています。価格の高いＧＭ作物のタネや除草剤などを買うために借金をし、その借金が返せずに土地を手放す農家や、自殺する農家が増えている、とフィリピンやインドでは報告されています。

◆特許権でタネが支配される

ＧＭ作物の栽培が広まると、そのタネや花粉が風で飛び、非ＧＭ作物の畑が遺伝子汚染されるようになります。汚染の被害者である農家は、ＧＭ作物の開発企業を訴えたいところでしょうが、逆に企業から、特許権侵害だとして訴えられることがあるのです。企業は、組換え遺伝子は知的財産だと主張し、特許をかけているからです。北米では実際に、何百件もの農家が訴えられ、その多くが破産しています。破産したくなければ、企業と契約を結んで、栽培したくもないＧＭ作物を栽培しなければならない羽目に陥ります。そうして得た利益で、GM 企業は世界中で種苗会社の買収を着々と進めています。非 GM のタネを入手したくても、手に入らない地域もでてきています。作物の品種を選ぶ自由が奪われ、わたしたちの食が、命が、企業に支配されてしまうことになるのです。

詳しくは「サルでもわかる遺伝子組換え」
（http://gmo.luna-organic.org）をご覧ください

チラシ作成日：2014.6.27

ルナ・オーガニック・インスティテュート　http://luna-organic.org